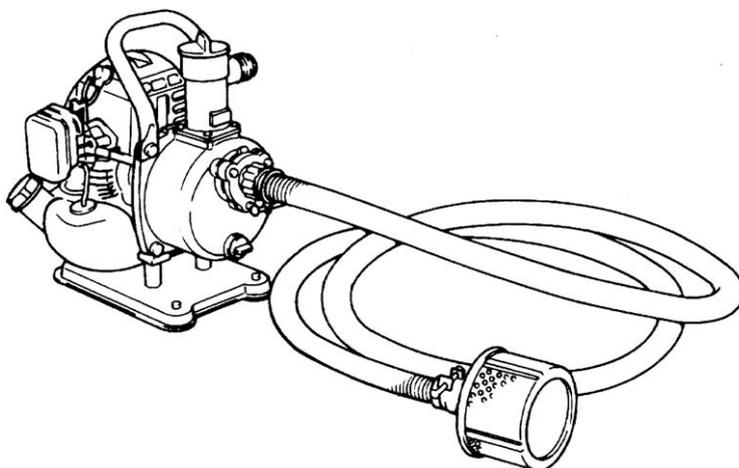


ゼノアエンジンポンプ 取扱説明書

PE2500H-EZ



※この製品を使用できるのは日本国内のみで、国外では使用できません。

*This product is designed for domestic use in Japan only and cannot be used in any country.

警告



- この取扱説明書には製品をご使用いただく上で、事故を防ぐ重要な注意事項と製品の取扱い方が示されています。この取扱説明書を良く理解した上、製品を安全にお使いください。お読みになった後は、いつでも見られるところに必ず保管してください。
- 電気関係部品は安全のため注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

操作装置のシンボルマーク

運転操作および保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。
これらの表示に従って誤操作のないようご注意ください。

マーク表示部位	図 柄	意 味
燃料タンクキャップ		使用燃料の種別が「混合ガソリン」であることを表わします。
エアクリーナカバー		このマークの方向にレバーを操作すると チョークが閉じることを示します。
		このマークの方向にレバーを操作すると チョークが開くことを示します。

はじめに

このたびはゼノア製品をお買い上げいただき誠にありがとうございました。

この取扱説明書は、製品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。

ご使用前によくお読みいただいて十分理解され、お買い上げの製品が優れた性能を発揮し、かつ快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。

また、お読みになった後必ず大切に保存し、分からないことがあった時には取り出してお読みください。なお、製品の仕様変更などにより、お買い上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

安全 第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた  の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。

なお、警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買い上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

■ 注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について次のように表示しています。

- | | |
|---|---------------------------------------|
|  危険 | : 注意事項を守らないと、死亡または重傷を負うことになるものを示します。 |
|  警告 | : 注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。 |
|  注意 | : 注意事項を守らないと、けがを負う恐れがあるものを示します。 |
| 重要 | : 注意事項を守らないと機械の損傷や故障の恐れがあるものを示します。 |
| 補足 | : その他、使用上役立つ補足説明を示します。 |

目次

▲ 正しくお使いいただくために	1
警告ラベルとその取扱い.....	4
サービスと保証について.....	5
各部の名称.....	6
製品主要諸元.....	7
燃料.....	8
給油.....	10
運転準備.....	11
エンジンのかけかた・運転.....	12
エンジンのかけかた.....	14
エンジンのとめかた.....	15
使用後の手入れ.....	15
点検整備	
作業前後点検.....	16
定期点検.....	16
エアクリーナ.....	17
燃料タンク.....	17
スパークプラグ.....	18
冷却用空気通路.....	19
エンジンの調整.....	19
100時間使用毎の手入れ.....	20
長期保管時の手入れ.....	21
主なトラブルと手入れ.....	22



正しくお使いいただくために

本製品をご使用になる前に、この取扱説明書をよく読み理解した上で正しく取扱ってください。快適に作業をするため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも本文の中で「 警告サイン」として説明のつど取り上げております。

■ 使用上の注意事項

- ご使用前にこの取扱説明書をお読みにになり、製品の機能と取扱い上の注意事項をよくご理解ください。
- このポンプを清水または、農業用水以外に使用しないで下さい。
使用できないもの：飲料水、泥水、海水、可燃性液体(灯油、軽油、ガソリン、重油など)、化学薬品、酸性/アルカリ性の液体など。
- エンジンの排気ガスには人体に有害な一酸化炭素が含まれています。 屋内やビニールハウス、トンネル内など、通気の悪い場所では本製品を使用しないでください。
- 使用中は、燃えやすいもの(わら、枯れ葉、紙くず、油布など)をポンプに近づけないでください。
- 初めてお使いになる場合は、実作業に入る前に熟練者から製品の取扱い指導を受けてください。
- この製品は運転中に電磁界を発生し、電磁界がペースメーカーやその他の医療器具に干渉する場合があります。
重傷・致命傷のリスクを軽減するために、ペースメーカーやその他の医療器具を装着された方は、この製品を使用する前に医師またはペースメーカー・医療器具メーカーに相談してください。

■ 燃料に関する注意事項

- 本製品のエンジンは、引火しやすいガソリンを含む「混合ガソリン」を燃料としています。
焼却炉、バーナー、たき火、かまど、電気スパーク、溶接火花など、引火の恐れがある場所では、燃料の補給をしたり燃料容器を保管したりしないでください。
- くわえタバコでの作業や燃料補給は危険です。絶対にしないでください。
- 燃料の補給や保管容器への注入作業は屋外の平坦な場所で行ってください。
通気の悪い屋内で給油作業をすると酸化した燃料に引火する恐れがあります。
- 使用中に給油する場合は、必ずエンジンを停止し、周囲に火気がないことを確かめてから燃料を補給してください。
- 給油後は、燃料容器を密閉してから、3m以上離れた場所でエンジンを始動してください。
- 給油時に燃料がこぼれた場合は、エンジンをかける前に、機体に付着した燃料を布などで完全にふき取ってください。
- 給油後は、燃料容器を密閉し、燃料タンクのキャップを確実に締めてください。
- 燃料タンクに、燃料を入れたまま長時間悪路を運搬しないでください。衝撃等でキャップがゆるみ燃料が漏れ出す恐れがあります。



正しくお使いいただくために

■ エンジン始動時・作業時の注意事項

- 作業を開始する前に機体各部を点検し、ネジ類のゆるみ、燃料漏れ、損傷、変形などの異常がないことを確かめてください。

- エンジン始動時は常に、固定レバーをアイドル位置（完全に戻した状態）にしてください。

- エンジン始動時および作業時は子供や動物などを遠ざけてください。

- 電気ショックを受ける可能性がありますので、エンジン運転中はスパークプラグやコードに触れないでください。



- 高温によるやけどの恐れがありますので、エンジン運転中および停止後エンジンが冷えるまでは、マフラ、マフラカバー、シリンダ、スパークプラグなどの高温部に触れないでください。

- ポンプに幼児や子供が触れないよう、隔離措置をして安全な場所で運転してください。

- ポンプで汲み上げる水の温度は、5℃以上 60℃以下の範囲で使用してください。範囲外で使用しますとポンプの破損につながります。

- 空運転(ポンプ内に水のない状態での運転)はしないでください。ポンプの破損の原因になります。

- 吸入側ホースは、必ずサクシオンホースを使用してください。

- 吸入・吐出ホースを接続する際は、製品付属のカップリングとホースバンドを使用してください。

- 使用中にポンプを移動する場合は、エンジンを停止してから行ってください。

- スタータノブを引いた後、遅れてエンジンが始動することがあります。始動するまで機械を押さえていてください。

- エンジンを始動する際に、
 - ・ スタータノブが軽く引けなかったり、戻らずにスタータロープが垂れる。
 - ・ スタータノブを引いてもエンジンがかからない。
 - ・ エンジンが 10 秒以上遅れて始動する。

等のときは、スパークプラグを必ず取り外して、分解せずにそのままお買い上げ店にご相談ください。

注意) スパークプラグが付いたままだと不意にエンジンがかかる恐れがあります。

- 運転中は、冷却用空気取入口に物を差し込んだりしないでください。回転部品に触れる恐れがあり危険です。

■ 整備上の注意事項

- この取扱説明書では、製品の機能維持に必要な整備について説明しています。本書に記載されていない整備が必要な場合は、お買い上げ店にご相談ください。

- 点検整備時は、必ずエンジンを停止してください。



正しくお使いいただくために

- エンジン停止直後は、素手でマフラ、マフラカバー、シリンダ、スパークプラグなどの高温部に触れないでください。



高温のためやけどの危険があります。

- 製品の改造や分解等はしないでください。運転中に機体が破損したり、正常な操作が出来なくなる危険があります。
- 交換用部品や補充用油脂類は、必ずゼノア純正品またはゼノア指定銘柄品を使用してください。
- この取扱説明書は必ず保管して、分からないことがあった場合など必要に応じてご参照ください。
- 小さいお子様の手の届くところに保管しないでください。
- 本製品を譲渡または貸与する際は、この取扱説明書を必ず添付してください。

■ 運搬時の注意事項

- 車で運搬するときは、ロープなどで荷台に確実に固定してください。危険ですので自転車やバイクでの運搬はしないでください。
- 燃料タンクに燃料を入れたまま長時間悪路を運搬しないでください。キャップがゆるみ燃料が漏れ出す恐れがあります。



正しくお使いいただくために

■ 警告ラベルとその取扱い

本機には次の警告ラベルが貼ってあります。よくお読みになって理解した上で作業してください。

① 品番 560491190

注 意

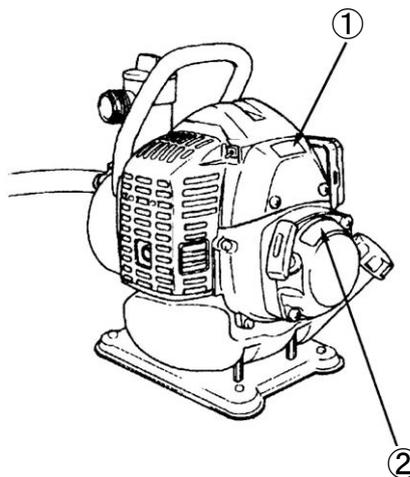
ご使用になる前に必ず
「取扱説明書」をお読み下さい。

④ 品番 T181291190

【貼付位置】



遅れてエンジンが始動
することがあります。
始動するまで機械を
押さえてください。



【ラベルのメンテナンス】

- 警告ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
- 警告ラベルが汚損したりはがれた場合はお買い上げの販売店に注文し、新しいラベルに取り替えてください。
- 新しいラベルを貼る場合は汚れを完全にふき取り、乾いた面にして元の位置に貼ってください。

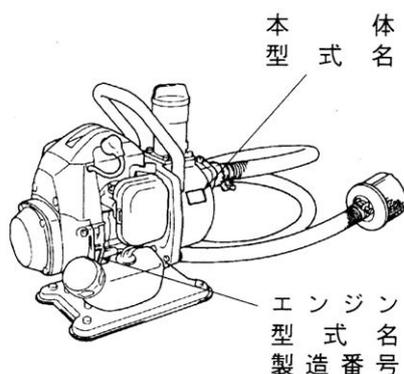
サービスと保証について

ご相談窓口

本製品に関するお問い合わせや消耗品のお求め、サービスのご用命は、お買い上げいただいた販売店で承ります。

お問い合わせの際は型式名と製造番号(下図参照)をご連絡ください。

製品・技術・その他に関してお気付きの点やご意見等ありましたらお気軽に弊社営業窓口(裏表紙記載)にお寄せください。



保証書について

本製品には、保証書を別途添付しております。保証書は、必ず「販売店名・お買い上げ日・型式名・製造番号」の記入押印をお確かめのうえ販売店から受け取っていただき内容をよくお読みのあと大切に保管してください。

補給部品の供給年限について

本製品の補修部品の供給年限は、製造打切後8年です。

ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

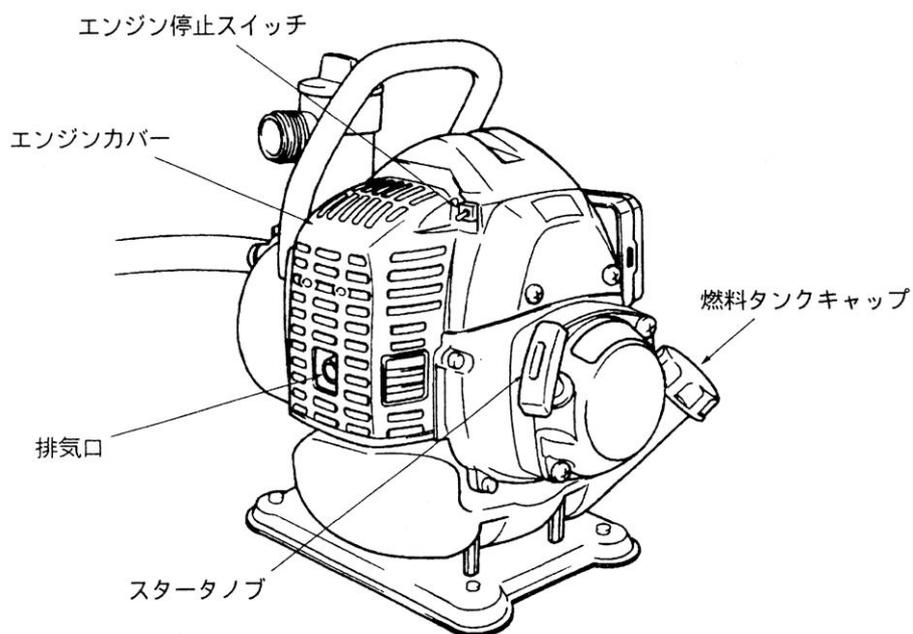
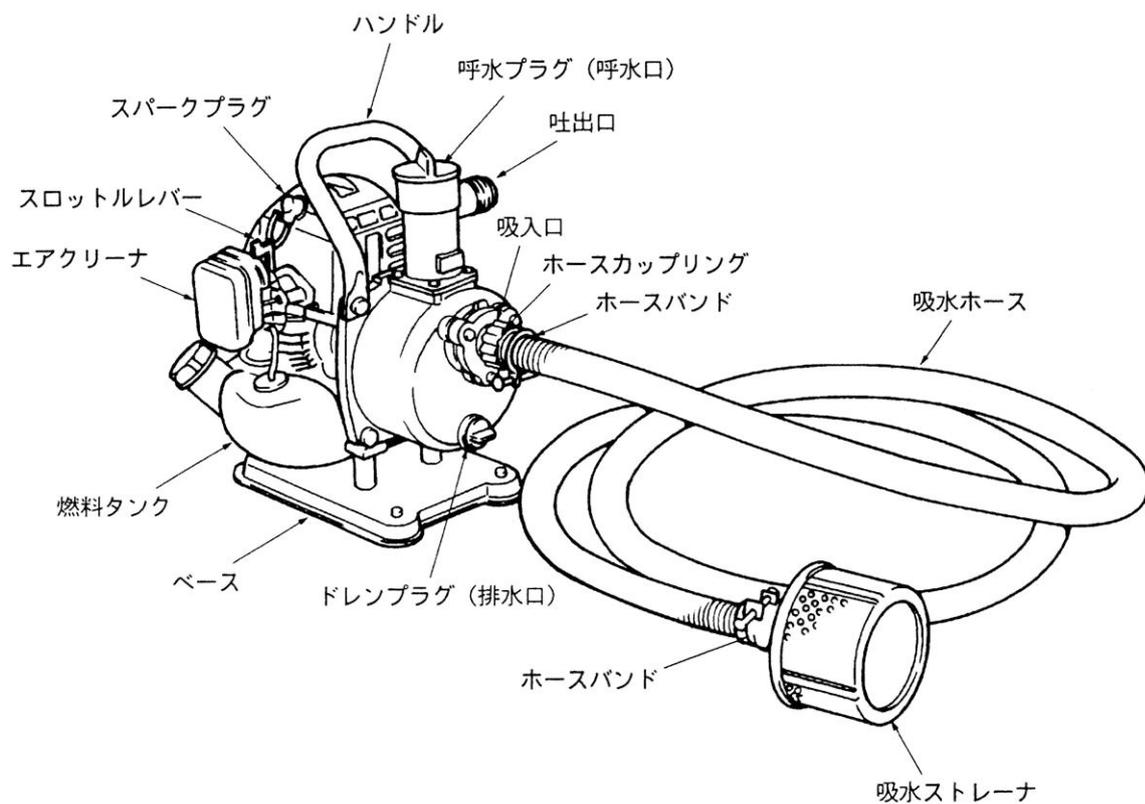
補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。



警告

機械の改造は危険ですので、改造しないでください。
改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカー保証の対象外になるのでご注意ください。

各部の名称

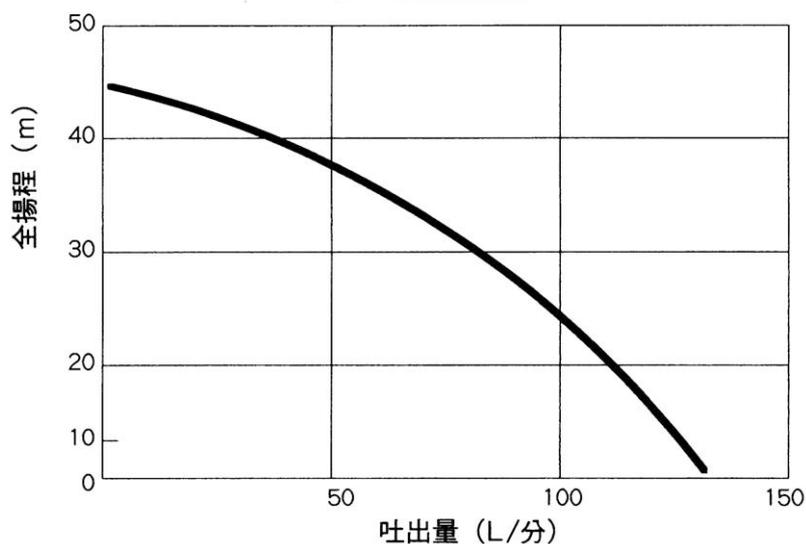


製品主要諸元

名称・型式		ゼノアエンジンポンプ [®] ・PE2500H-EZ
ポンプ	形式	自吸式ポリユートポンプ
	吸入・吐出口径	25mm(1インチ)
	全揚程	45m
	最大吐出量	130L/分
エンジン	形式	強制空冷2サイクルガソリンエンジン
	型式	ゼノア G43LH-D
	排気量	41.5 cm ³
	最大出力	1.3kW(1.75PS)/7200rpm
	使用燃料	潤滑油混合ガソリン
	使用潤滑油	2サイクルエンジン専用オイル
	混合比	ゼノア純正オイル(FD級)使用時 50:1
	燃料タンク容量	約0.95L
	無給油連続運転可能時間	約40分
	点火方式	電子制御フライホイールマグネット(TCI方式)
	スパークプラグ	チャンピオン RCJ-6Y
	始動方式	リコイルスタータ式
	停止方式	点火回路一次側短絡式(トグルスイッチ)
本体外形寸法(全長×全幅×全高)		348×257×334 : mm
本体質量		7.7kg
標準付属品		吸水ホース3m 1本、ストレーナ 1個、ホースカップリング 2個、 ホースバンド 3個、タケノコニップル (25×20) 1個 ドライバ 1個、プラグレンチ 1個

改良などにより商品の細部仕様が本書記載内容と異なることがあります。予めご了承ください。

ポンプ性能曲線



燃 料

 危 険	<ul style="list-style-type: none">● 燃料は非常に引火しやすいため取扱いを誤ると火災事故の原因となります。また、気化した燃料は爆発して死傷事故を起こす恐れがあります。● 燃料の混合時は必ず火気を遠ざけ、タバコは吸わないでください。● 混合作業は屋外で行ってください。● 機体や燃料容器を、たき火やバーナーなどの火気の近くに放置しないでください。
 警 告	<ul style="list-style-type: none">● 燃料タンクキャップを開ける前に製品および補給用タンクを地面に置くなどして、帯電している静電気を除去してください。● 燃料補給時に金属製の漏斗を使用しないでください。静電気が燃料に放電して火災の原因となります。● 燃料タンクキャップを開けるときはゆっくりと開けて、タンク内の圧力を逃がしてください。● 燃料パイプ、燃料グロメット、燃料タンク周辺から漏れやにじみがある場合は、直ちに使用をやめ、お買い求めの販売店に修理を依頼してください。● 補給用燃料は、火気のない日陰に置いてください。● 余った燃料は、金属製のガソリン携行缶で保管してください。● 燃料を運搬する際は、金属製のガソリン携行缶を使用してください。
重 要	<ul style="list-style-type: none">● オイルが混合されていないガソリン(生ガソリン)を使うとエンジンが焼き付きます。給油時は燃料が正しいか確かめてください。● 燃料は紫外線や高温に長時間さらされると変質劣化し、始動不良や出力不足などの原因になります。混合した燃料は、30日以内を目安に使い切るようにしてください。● 水が混入した燃料を使うと、キャブレタやエンジンの内部が腐食します。機体や燃料容器に水がかからないようにしてください。● 4サイクルエンジン用オイルは使わないでください。スパークプラグ汚損やピストンリング固着、マフラ詰まりなどを起こしやすくなります。● エンジン不調の原因となりますので指定外のオイルや混合比で使用しないでください。
補 足	ガソリン・混合燃料は、ポリタンクで持ち運びできません。必ず金属製のガソリン携行缶をご利用ください。また、セルフ式のガソリンスタンドではガソリン携行缶に給油できませんのでご注意ください。

補 足	<p>-エンジンオイル-</p> <p>機体の最適な性能を発揮するために、ゼノア純正 FD 級50:1エンジンオイル、 1L:578020401 4L:578020301 20L:578020201 もしくは JASO 性能分類 FD のエンジンオイルを50:1の比率でよく混合してご使用ください。</p> <p>始動性・加速性・パワーに優れたオイル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優れた清浄効果で、エンジンを長期間クリーンに保持。 ・タール・カーボン付着軽減による高い排気性能。 ・高い潤滑性能で長期の過酷な運転にも対応。 <ul style="list-style-type: none"> ・2ストロークエンジンの厳しい高温下においても、ピストンリングの膠着を抑制します。 ・排気煙がきれいな[ロースモーク]タイプです。 ・排気系閉塞性に優れ、メンテナンスが軽減できます。 ・50:1 でお使い頂けますので経済的です。 <ul style="list-style-type: none"> ・FD 規格は優れた排気煙抑制・排気系閉塞性に加えて高温時のピストン等の清浄性を向上させた規格で、現在主流になっている FC 規格より優れた性能を有しています。 ・農林業用の2ストロークエンジンは、走行風で冷却する2輪車と違い、冷却面で非常に厳しい環境下に置かれており、ピストン内外部が高温状態になります。よって、農林業用エンジンは、モーターサイクル用 2 サイクルエンジン油と比較して高い「高温清浄性」が必要であり、FD 規格最大の特徴である「清浄性」は農林業用のエンジンにとって最適な性能と考えます。
-----	--



燃料は、自動車用無鉛ガソリンと空冷2サイクルエンジン用オイルを下記割合で混合容器に入れ、容器を振ってよく混ぜ合わせたものを使用してください。

〔混合比〕

□ゼノア純正2サイクルオイル(FD級)使用時
..... **50:1**
(ガソリン1Lに対しオイル20mL)

もしくは、JASO性能分類FDのオイルを50:1の比率でよく混合してください。

給 油

 危 険	<ul style="list-style-type: none">● 燃料タンクへの給油は屋外の平坦な場所で行ってください。 給油時は火気を遠ざけタバコは消してください。● 作業の途中で給油する場合は、必ずエンジンを停止し、冷えてから行ってください。● 燃料キャップは確実に締め付けてください。● 給油時にこぼれた燃料はエンジンを始動する前に布でよくふき取ってください。
重 要	燃料タンクへの給油量は、8分目を目安にしてください。 燃料を入れ過ぎると、運転時にタンクキャップから燃料がもれる恐れがあります。

1. 給油する機体を屋外の平坦な場所に置き、安定させてください。
2. 燃料タンクのキャップを少しゆるめ、燃料タンク内と外部の気圧差を取り除いてください。
3. 燃料タンクのキャップを取り外し、8分目を目安に少しずつ給油してください。
4. 給油が終わったらタンクキャップを確実に締め付けて、燃料漏れのないことを確認してください。

— ゼノア純正 ビッグバンガソリン —

ゼノア純正混合ガソリン「ビッグバンガソリン」は、運転休止期間の長いエンジン機器用に開発された2サイクルエンジン専用の混合燃料です。

- ◎変質しにくい特殊ガソリンの採用でキャブ詰まり追放
- ◎エンジン内部を摩耗や汚れから守り、排気をきれいにする各種添加剤配合
- ◎混合の手間不要

◎給油・持ち運び・保管に便利な金属容器入り

などのすぐれた特長を持っており、運転休止の直前にお使いになるだけで運転再開時のエンジントラブル予防効果を発揮します。

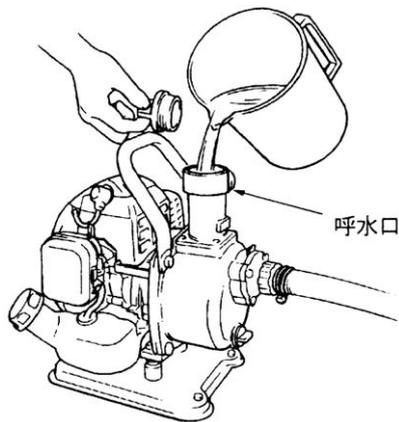
詳しくはご購入し店にお問い合わせください。

運 転 準 備

重 要

- 吸水ホースには、付属のサクシオンホース(呼び径25mm x 3m)または同等の「ウォーターサクシオンホース」を使用してください。
- ホース接続時は、製品付属のホースカップリングとホースバンドをご使用の上、確実に取り付けてください。
- 吸水ホースの接続部がゆるんでいたり、カップリングのパッキンが紛失、劣化していたりすると、運転時に空気を吸い込み、揚水しないことがあります。
- 使用時は、吸水ホースの先端に必ず付属のストレーナを取り付けてください。
- ストレーナは水面に出ないように、また、水底の砂泥を吸わないように設置してください。

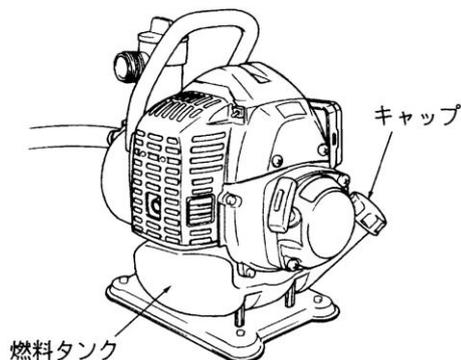
図2



1. ポンプは、水源に近く固定しやすい場所に水平になるように設置してください。
2. 付属のホースカップリングをサクシオンホースと吐出ホースに取り付けホースバンドで確実に締め付けてください。
3. ホースカップリングのパッキンに異常がないか確かめてから、ポンプの吸入口にサクシオンホースを、吐出口に吐出ホースをそれぞれ接続してください。

補足 吐出口の向きは、3方向に変えることができます。設置条件に合わせて適切な向きにしてお使いください。

図3



4. 吸水ホースのストレーナを水中に入れてください。
5. 吐出ホースを目的の場所まで敷設します。ホースが踏まれるおそれがある場合は、適切な覆いをしてください。
6. 呼水プラグを取り外し、呼水口から満水になるまで水を入れてください。(図2)
7. 燃料タンクに燃料を入れ、キャップをしっかり締めてください。(図3)

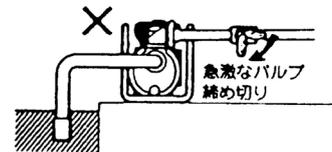
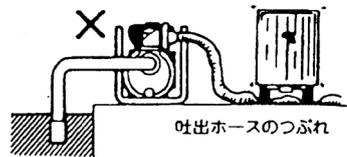
エンジンのかけかた・運転

 危険	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料を補給後エンジンを始動する場合は、機械を給油した場所から3m以上離れた場所に移してから始動してください。給油した場所で始動すると引火による火災のおそれがあります。 ● 室内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。人体に有害な一酸化炭素中毒のおそれがあります。
 警告	<ul style="list-style-type: none"> ● エンジンの始動、停止時、移動時は常にスロットルレバーをアイドル位置にしてください。レバーがアイドル位置以外になっていると、刈刃が回転し始めてしまうので非常に危険です。 ● 遅れてエンジンが始動することがあります。始動するまで機械を押えていてください。 ● エンジンを始動する際に、 <ul style="list-style-type: none"> ・ スタータノブが軽く引けなかったり、戻らずにスタータロープが垂れる。 ・ スタータノブを引いてもエンジンがかからない。 ・ エンジンが10秒以上遅れて始動する。 等のときは、スパークプラグを必ず取り外して、分解せずにそのままお買い上げ店にご相談ください。 <u>注意) スパークプラグが付いたままだと不意にエンジンがかかる恐れがあります。</u> ● エンジン停止時、移動時には必ずエンジンスイッチを「停止」側にしてください。
 注意	<ul style="list-style-type: none"> ● 給油時にこぼれた燃料は、エンジンを始動する前に布で確実にふき取ってからエンジンを始動してください。 ● 始動前に機体各部を点検し、ハンドル取付部のゆるみやスロットルレバーの作動不良、燃料漏れなどの異常がないことを確かめてください。 ● エンジンをかける前に、吐出ホース先端部付近に濡らしてはいけないものがないか確かめてください。また、周囲の人に吐水開始を伝え注意を促してください。 ● 高温によるやけどの恐れがありますので、エンジン運転中および停止後エンジンが冷えるまでは、マフラ、マフラカバー、シリンダ、スパークプラグ、などの高温部に触れないでください。 ● 感電によるショックを受けることがありますので運転中はスパークプラグやプラグコードに手を触れないでください。

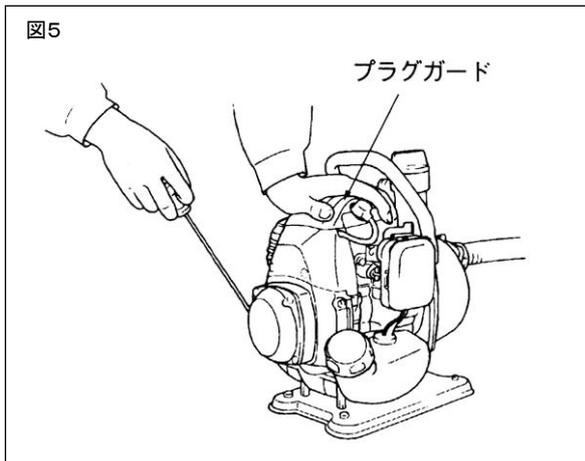
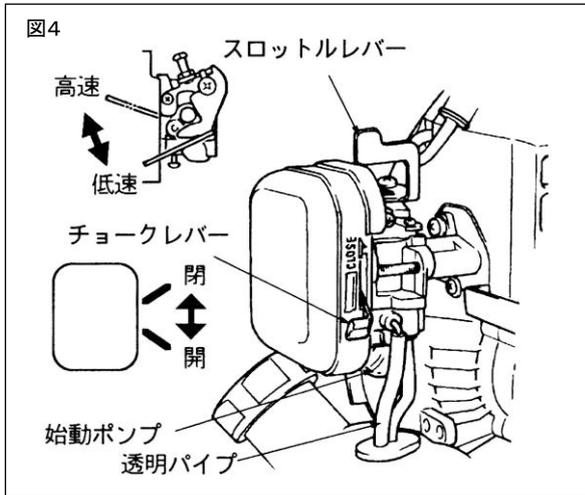
重 要

チョークを閉じたまま始動操作を繰り返すと、スパークプラグの電極がぬれてエンジンがかからなくなることがあります。このような場合は、チョークを開き、スロットルレバーを全開に近い位置にセットしてからスタータロープを繰り返し引くか、スパークプラグを取り外して電極を乾かしてから始動操作をやり直してください。

- ポンプ内に水がない状態で空運転するとポンプ破損の原因となります。エンジンをかける前に、ポンプ内に呼水が満たされているか確かめてください。また、運転中に吸水ストレーナが水面に露出した場合は、ただちにエンジンの回転を下げ運転を中止してください。
- 吸水ホース接続部にゆるみがないか確かめてください。ゆるんでいると水を吸い上げないことがあります。
- 吐出ホースが塞がれていたり、吐出側に設けられたバルブが閉じていたりすると水を吸い上げないことがあります。
- 運転中に吐出ホースを踏んだり、吐出側のバルブを急激に閉め切ったりすると瞬間的に大きな圧力がポンプケース内に発生し、ポンプが破損することがあります。(水撃作用)
ホースが踏まれるおそれがある場合は適切な覆いをし、バルブの急激な締め切りはしないでください。



■ エンジンのかけかた



1. エンジンスイッチを「運転」側にしてください。
2. スロットルレバーをアイドル位置にセットしてください。
3. キャブレタ下部の始動ポンプでキャブレタに燃料を満たします。燃料が透明なパイプを通過してタンクに戻り始めるまで、ポンプを指で押し離す操作を繰り返してください。

補足 タンクに燃料が残っている状態でエンジン停止直後に再始動する場合にはポンプ操作は必要ありません。

4. チョークレバーを「閉」の位置にして、スロットルレバーを完全に戻した位置から1/3から1/2開いた位置にセットしてください。

補足 エンジン停止直後に再始動する場合は、チョークを「開」の位置にしてスタータロープを引いてください。

5. 機体の安定を確かめ、左手でプラグガードを押えながら右手でスタータノブを引いてください。スタータノブは始めは軽く引き出し、重くなったら力をこめて素早く引いてください。

重要 スタータ故障の原因となりますので、ロープを最後まで引き出したり、ノブから手を離して戻したりしないでください。

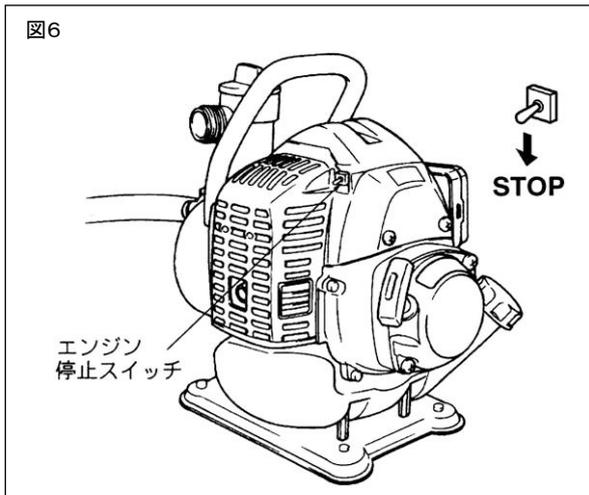
補足 チョークを閉じたまま始動操作を繰り返すと、スパークプラグの電極がぬれてエンジンがかかなくなることがあります。このような場合は、チョークを開き、スロットルレバーを全開に近い位置にセットしてからスタータロープを繰り返し引くか、スパークプラグを取り外して電極を乾かしてから始動操作をやり直してください。

6. エンジンが始動したらチョークレバーを徐々に開き、スロットルレバーを戻して低速で1～2分間暖機運転してください。

7. 吸水ホース内の水がポンプに上がってくるまでスロットル半開で運転し、吐水し始めたら能力の範囲内で必要とする水量が得られる位置にスロットルをセットしてください。

■ エンジンのとめかた

 注意	<ul style="list-style-type: none">● 緊急時は直ちにエンジンの停止操作をしてください。● エンジン停止直後はマフラやスパークプラグに素手で触れないでください。高温のため火傷の危険があります。
---	---

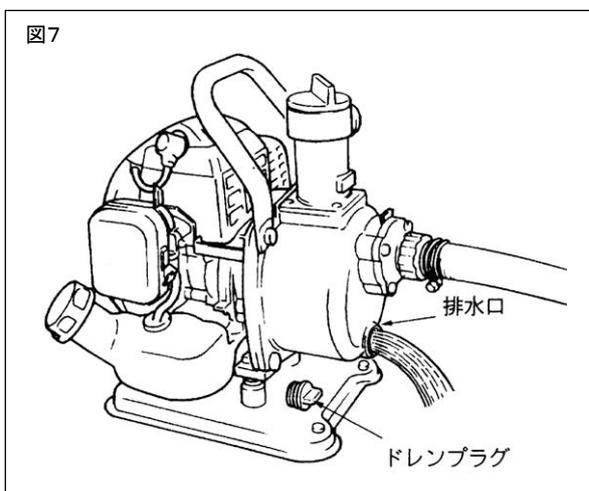


1. スロットルレバーを「最低速」位置にして1～2分間冷却運転をしてください。
2. エンジン停止スイッチのノブをSTOPの方向に倒してください。(図6)

補足 接触不良によりエンジンスイッチを「停止」側にしてもエンジンが止まらない場合は、チョークレバーを「閉」の位置にしてください。しばらくするとエンジンが停止します。やむを得ずチョーク「閉」の位置でエンジンを停止した場合は、エンジンスイッチおよびスイッチコードの点検・修理を行ってください。

■ 使用後のお手入れ

重要	寒冷時は、特に使用後の排水を励行してください。外気温が氷点下になるとポンプ内の水が氷結し、ポンプを破損させることがあります。
-----------	--



1. ポンプ下部のドレンプラグをゆるめて、ポンプ内部の水を排出してください。(図7)
2. ホースを取り外し、水気や汚れを拭き取ってから所定の場所に格納してください。

点検整備

 注意	<ul style="list-style-type: none"> ● 点検整備時は必ずエンジンを停止してください。 ● 機体の改造やエンジンの分解はしないでください。 事故や重大な人身事故を招く恐れがあります。製品の改造が原因で故障した場合は、弊社保証の対象外となります。 ● 部品交換時は純正部品または指定品を使用してください。 ● ご自身で点検整備できない場合は、お買い上げ店に依頼してください。
---	--

■ 作業前後点検

作業前後に次の点検を行ってください。

点 検 項 目		処 置
1	スロットルレバー	・動きが悪い ・修理または交換
2	燃料タンク	・燃料漏れ ・燃料パイプ損傷 ・修理または交換 ・交換
3	各締付部	・ゆるみ、脱落 ・締め付け、修理
4	マフラ	・取付部ゆるみ ・排気ガス出口の詰まり ・締め付け ・マイナスドライバなどで詰まりを取り除く

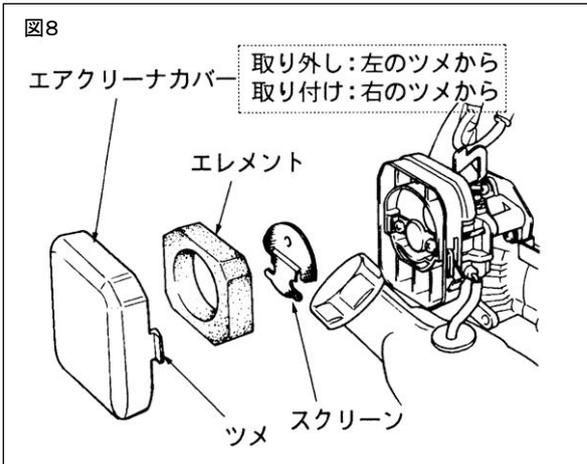
■ 定期点検

下記の使用時間毎に点検を行ってください。

点 検 整 備 項 目		使用時間		備 考
		25時間	50時間	
エ ン ジ ン	エアクリーナエレメントの清掃	○		
	燃料フィルタの点検清掃	○		
	スパークプラグの点検清掃、調整	○		スキマ 0.6～0.7mm
	冷却空気取入口、シリンダフィン	○		
	シリンダ取付ボルトの増締め		○	
	エンジン各部の増締め		○	
	マフラカーボン落とし		○	

■ エアクリーナ

重 要	エアクリーナエレメントが詰まるとエンジンの出力が低下し、燃費が悪化します。また、エレメントを外して運転したり、変形・破損したエレメントを付けて運転を続けるとエンジン内部が異常摩耗します。
------------	---



使用25時間毎に、エアクリーナカバーを取り外してエレメントの汚れ具合を点検し、汚れがひどい場合は、中性洗剤入りの温湯で丁寧に洗い、よく乾燥させてから元通り取り付けてください。

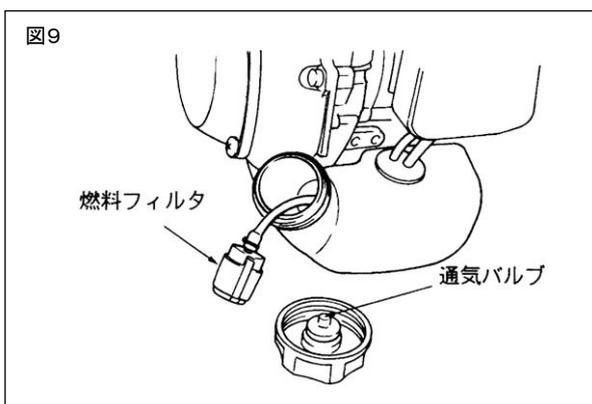
エレメントが変形・破損した場合は新品と交換してください。

補足 エアクリーナカバーを取り外す際は、カバーに向かって左側のツメから外してください。取付時は右側のツメから取り付けてください。

エレメント品番 : Z1750-82020

■ 燃料タンク

重 要	<ul style="list-style-type: none"> ● 燃料フィルタが汚れている場合やタンクキャップの通気バルブが詰まっているとエンジンの回転が上がらないなど回転変動を起こす場合があります。 ● 燃料フィルタを付けずに運転するとキャブレタ目詰まりの原因となります。
------------	---



使用25時間毎に燃料タンク内部を点検し、ゴミや水分が混入している場合は、排出してください。

● 燃料フィルタ

汚れを取り除き、目詰まりがひどい場合は新品と交換してください。

燃料フィルタ品番 : Z3302-85400

燃料フィルタをタンクに戻す際は燃料パイプが折れ曲がらないように注意してください。

重要 燃料フィルタが詰まったり燃料パイプが折れ曲がっていると、エンジン回転数が上がらなかったり回転変動を起こしたりします。

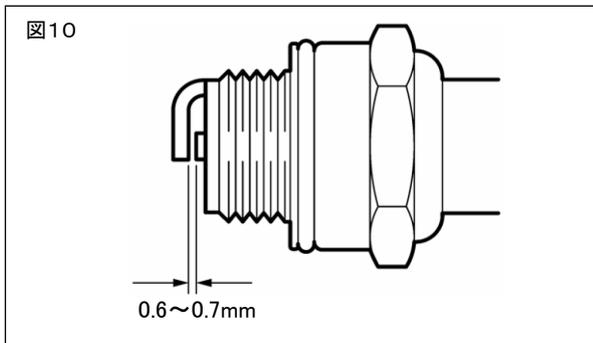
● 燃料タンクキャップ

通気バルブが詰まってないか点検し、汚れを取り除いてください。

■ スパークプラグ

	注意 エンジン停止直後はスパークプラグに素手で触れないでください。高温のため火傷の危険があります。
---	--

重要	<ul style="list-style-type: none"> ● スパークプラグの締め付けが強過ぎるとシリンダのネジ部が破損することがあります。プラグ締め付け時は必ず付属のプラグレンチ(ソケットレンチ)を使用してください。 ● 燃料を吸い込み過ぎたり、オイルの質が悪かったりするとスパークプラグの電極が汚れ、エンジンがかかりにくくなることがあります。 ● プラグ交換時は指定品を使用してください。指定外品を使用するとシリンダやピストンが破損することがあります。
-----------	---



使用25時間毎を目安にスパークプラグを取り外して電極の汚れをワイヤブラシなどで取り除いてください。

- プラグ取り付け時は、まず指でねじ込み、最後に付属のプラグレンチ(ソケットレンチ)で締め付けます。

【締め付トルク】

15~22N・m {150~220kgf・cm}

重要 初めからプラグレンチで締め込むとねじ山が破損する恐れがあります。

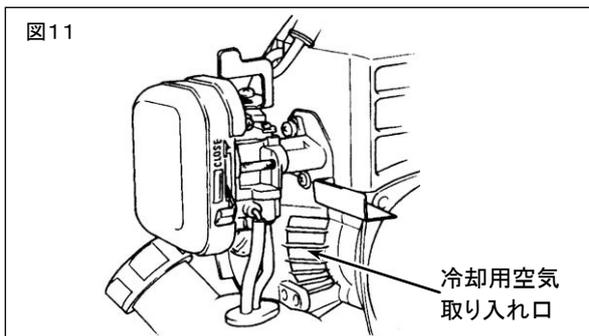
電極隙間は、0.6~0.7mmが適当です。プラグ交換時は指定品をお使いください。

指定スパークプラグ	チャンピオン RCJ-6Y または NGK BPM7A
-----------	-----------------------------------

重要 燃料を吸い込みすぎたりオイルの質が悪かったりするとスパークプラグの電極が汚れ、エンジンがかかりにくくなる場合があります。

■ 冷却用空気通路

 警告	運転中は、冷却用空気取り入れ口に物を差し込んだりしないでください。回転部品に触れ重大な事故につながるおそれがあります。
重要	冷却用の空気取入口やシリンダフィンの中にゴミが詰まるとエンジンが過熱し、故障の原因となります。

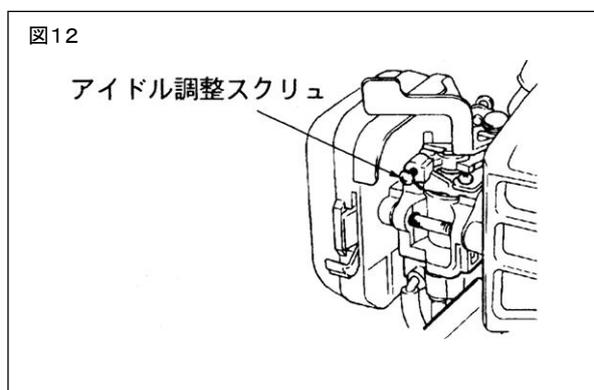


25時間使用毎に冷却用空気取入口やシリンダの冷却フィン回りを点検し、付着したゴミを取り除いてください。

■ エンジンの調整

エンジンは工場出荷時に調整されていますが、運転条件の変化（エンジンのなじみ、高地使用等）により再調整が必要と思われる場合は、以下の手順で調整してください。調整しても改善しない場合は他の原因が考えられますのでお買い上げ店にご相談ください。

アイドル調整スクリュー



運転中スロットルレバーを完全に戻した位置にしたとき、エンジンが止まってしまう場合や逆にエンジン回転が高過ぎるような場合は、アイドル調整スクリューを再調整してください。

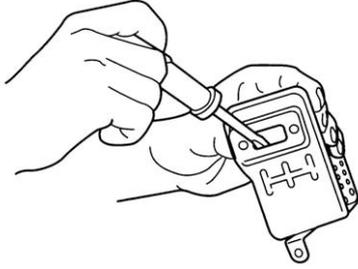
【調整方法】

エンジンをかけ、2～3分中速で暖機運転した後、スロットルレバーを完全に戻した位置にしてからアイドル調整スクリューをマイナスイヤで回してください。

スクリューを右に回すとエンジン回転が上がり、左に回すとエンジン回転が下がります。

■ 100時間使用毎の手入れ

図13



1. マフラを外して、排気口にドライバを入れてカーボンを落してください。同時にマフラ出口のカーボンも落してください。
2. 各締め付け部の増締めを行なってください。

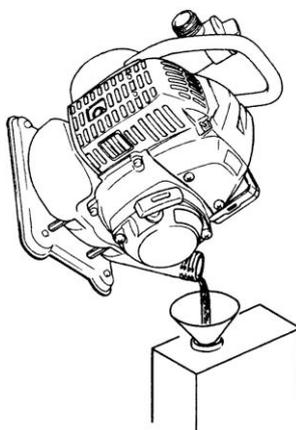
■ 長期保管時の手入れ

 危険	<p>引火による火災の恐れがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 燃料抜き取り時は、火気を遠ざけてください。 ● 燃料をこぼさないように注意し、こぼれた燃料は完全にふき取ってください。
---	--

 注意	<p>保管する場合は下記の点に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 屋外放置を避けること。 ● 夏場の高温になる車内への放置を避けること。 ● 子供の手の届かない場所を選ぶこと。
---	--

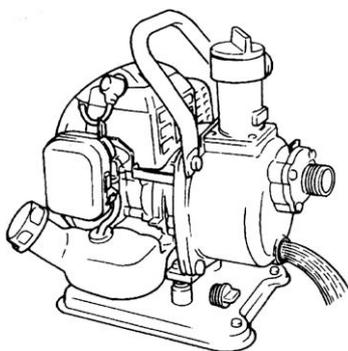
重要	<ul style="list-style-type: none"> ● 長期間(2ヵ月以上)使用しない場合は、燃料タンクとキャブレタから燃料を抜いてください。燃料を入れたまま長期間放置すると燃料が変質してキャブレタ内部が詰まり、エンジン故障(始動不良や出力不足)の原因となります。 ● 保管時は、燃料タンクのキャップをゆるめにしてください。強く締め過ぎると経時変化によりパッキンが変形することがあります。
-----------	---

図14



1. 機体の汚れを落としながら、各部の損傷やゆるみなどの有無を点検し、異常が発見された箇所は次回の使用に備え完全に整備してください。
2. 燃料タンクから燃料を抜き取ってください。(図14)
3. キャブレタの始動ポンプを燃料が出なくなるまで押し、配管通路内の燃料を燃料タンクに戻してください。
4. もう一度、燃料タンクから燃料を抜き取ってください。
5. ポンプに水を満たしてエンジンをかけ、自然に止まるまで運転してください。

図15



6. スパークプラグを取り外し、2サイクルオイルを1～2mL エンジン内に入れてください。スタータロープを2～3回引いてからプラグを元通り取り付け、重くなる位置で止めてください。
7. ポンプ内の水を完全に排出し(図15)、乾いた布で水気を拭き取ります。
7. 金属部に防錆油を塗った後、屋内の火気や湿気のない場所に、シート等をかけて保管してください。

主なトラブルと手入れ

現象	主な原因	処置
スタータロープが引き出せない (クランクシャフトが回らない)	・ インペラ(羽根車)固着、異物かみ込み ・ エンジン焼き付き、異物かみ込み	・ ポンプ分解修理(販売店に依頼) ・ エンジン分解、損傷部品交換(販売店に依頼)
エンジンが始動しない	・ 燃料不良(異質、劣化) ・ 燃料吸い込み過ぎ ・ マフラ排気出口詰まり ・ スパークプラグ電極汚損、短絡、断線 ・ キャブレタ目詰まり ・ ピストン、シリンダ損傷 ・ 点火コイル断線、短絡	・ 正規燃料と交換(8、9、10頁) ・ チョークを開き、スロットルを全開にしてロープを繰り返し引く(14頁) ・ 詰まり除去(20頁) ・ 電極清掃またはプラグ交換(18頁☆) ・ キャブレタ分解修理(販売店に依頼) ・ エンジン分解修理(販売店に依頼) ・ 交換(販売店に依頼☆)
吸水しない	・ ポンプ内の呼び水の量が少ない ・ 吸水ホース接続部のゆるみ ・ 吸水ホース接続部パッキン不良 ・ 吸水ホース亀裂、穴あき ・ 吐出ホース折れ曲がり、バルブ閉鎖	・ 呼び水を補充する(11頁) ・ 空気を吸わないように確実に締め付ける ・ 良品と交換(販売店に依頼) ・ 良品と交換☆ ・ 折れ曲がりを直す、バルブを開く
吐出水量が少ない	・ 吸水ストレーナ目詰まり ・ 水源に対しポンプの位置が高すぎる ・ 吸水先が遠すぎるまたは高すぎる ・ ポンプ内部異物詰まり ・ インペラ摩耗	・ 吸水ストレーナ清掃 ・ ポンプを水源に近づける ・ 吸水先の近くに水源を確保する ・ ポンプ分解修理(販売店に依頼) ・ インペラ交換(販売店に依頼☆)
エンジン出力不足	・ エンジン回転数が低い ・ 燃料劣化、水混入 ・ エアクリーナ目詰まり ・ 燃料フィルタ目詰まり ・ マフラ排気口詰まり	・ スロットルレバーの位置を高速側に移す ・ 正規燃料と交換(8、9、10頁) ・ 点検、清掃(14頁) ・ 点検、清掃または交換(14頁☆) ・ マフラ清掃(20頁)
スロットルを戻すとエンストする	・ アイドリング回転数が低すぎる	・ 再調整(19頁)または販売店に依頼
スロットルを戻してもポンプが回り続ける	・ アイドリング回転数が高すぎる	・ 再調整(19頁)または販売店に依頼
ポンプ本体から水が漏れ出す	・ 組み付けボルトゆるみ ・ パッキン摩耗、劣化 ・ メカニカルシール摩耗、損傷	・ 増し締め ・ パッキン交換(販売店に依頼☆) ・ メカニカルシール交換(販売店に依頼☆)

- ・ 上記処置を講じても現象が改善しない場合や、上記以外の不調現象が生じた場合は、お買い上げ店にご相談ください。
- ・ ☆印のついている処置につきましては、お買い上げ店で純正部品をお求めください。

 危険	<ul style="list-style-type: none"> ● 機械の改造や分解等はやしないでください。運転時に機体が破損したり、燃料漏れや作動不良による不測の事故を招く恐れがあります。 ● 点検処置時はタバコなどの火気を遠ざけてください。燃料に引火する恐れがあります。 ● 機体各部の締結部品(ボルト、ナット、ネジ類)は必ずゼノア純正品または指定品を使用してください。規格外品を使用すると、使用中に機体が破損したり部品が脱落したりして不測の事故を招く恐れがあります。
---	--



修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は、
まず、お買い上げの販売店へお申し出ください。

製品・技術・その他のお問い合わせ

ハスクバーナ・ゼノア株式会社 国内営業本部



0570-084987

月～金/9:00～17:00(土日祝、弊社指定休業日は除く)

<http://www.zenoah.co.jp/>

ハスクバーナ・ゼノア株式会社

本社: 〒350-1165 埼玉県川越市南台 1-9

(平成 29 年 5 月現在)

T490693111(E3_A1705) PRINTED IN JAPAN